

# 卷頭言

## 「大らかさ」と「多様性を育む教育」

本校の前身は真言宗豊山派が明治36年に創建した旧制「豊山中学校」です。昭和29年には運営が学校法人「日本大学」に移行され、以来、日本大学の正付属校のひとつとして現在に至っています。旧制豊山中学校の創立から今年で121年、日本大学直属の付属校としては創設70周年という節目の年を迎えます。

本校を紹介する上で大きな柱となるもののひとつに、「強く 正しく 大らかに」の校訓のもと展開される男子校としての教育があります。

「男子校」というと「力強さ」や「逞しさ」、場合によっては「荒々しさ」などをイメージされる方も多いと思います。しかし本校が掲げる「男子校教育」は、「男子はかくあるべき」といった固定概念に捉われるものでは決してありません。その一つとしてあげられるのが「多様性を認め合う精神の育成」です。男子校だからこそ、男子校でしか成しえない「多様性を育む教育」を展開することです。

本校は通学範囲も広いことから、多くの地域から様々な生徒が集まっています。その中には世界レベ



日本大学豊山高等学校・中学校 校長

松 井 靖

ルで活躍する運動選手もいれば、運動とは全く無縁で、鉄道や模型、音楽や芸術などの文化活動に没頭する生徒もいます。趣味も特技も将来の目標も全く違う生徒たちが同じ学び舎でお互いを認め合い、共存していく。そして卒業後、全く違った人生を歩む中でも一生の友として交流を続けていく。自分のやりたいことを気兼ねなく、思いっきりできる環境の中で、お互いの多様性を認めることができる学校。それが日大豊山なのです。

本校の卒業生が様々な分野で活躍しているという事実は、まさに本校の校訓の一つ、「大らかさ」にもある「多様性を育む教育」の賜物だと確信している次第です。

これからも本校は護国寺の深い緑に抱かれながら、ますます飛躍してまいります。これまで本校の発展にご尽力いただき、支えていただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、巻頭の言葉とさせていただきます。

